



◆私たちができるところを続けていきたい

下郷農協女性部
部長 石川貴美氏

4月の下郷農協女性部の総会で「(被災地支援で)私たちができるところをしたい」という声が出た。被災地に物資を届けたいという思いがありました。そんな中、岩手県消費者団体連絡協議会事務局長の伊藤様を紹介していただき、連絡を取り合いながら支援物資を決め、地域の人たちの協力も得て、あっという間に必要な荷物がそろいました。送料は農協が負担してくれましたし、カンパにもみんな進んで寄付してくれました。

物資も寄付もとても足りないと思いますが、被災地の皆さまのご活動に私たちも元気をもらいながら、今後も「私たちができるところ」を続けていきたいと思っています。

下郷農協は孫子の代までも健康な生活を送り続けてほしいという思いで、安全な食品を生産・販売しています。生協さんは、それをさらに広げてくださるところだと思います。皆で協力してこれからも助け合いましょう。



下郷農協女性部の皆さん。(前列中央が石川部長)

大分の農協から支援物資届く

～いわて生協、いわて食・農ネットが支援物資の無償配布実施～



下郷農協女性部から届いた義援金で野菜を購入。配布には多くの人が訪れた。

9月20日に、岩手県陸前高田市高田町山苗代の体育施設「サン・ビレッジ高田」の仮設住宅で、支援物資の無償配布が行なわれました。これは、「いわて食・農・地域を守る県民運動ネットワーク(以下、いわて食・農ネット※)」といわて生協が協力して行なったものです。物資は大分県中津市の下郷農協女性部から届けられたもので、秋冬物の衣料や野菜、米が配布されました。また、物資と共に届けられた義援金で、陸前高田に向かう途中の農産物直売所「紫波ふる里センター」で野菜を購入し、こちらと一緒に配布されました。

同時に炊き出しも行なわれ、いわて食・農ネットのメンバーといわて生協の職員、組合員が協力して、「芋の子汁」を調理しました。当日は気温もぐっと下がり、温かい炊き出しは大好評でした。またこの日、「お茶っこ会」も開催され、傾聴ボランティア講座を受講済みの組合員ボランティア8人が、被災された方の話をじっくり聞きました。

下郷農協女性部から提供された物資を用いた支援は、この日の他に22、24日にも市内2カ所で実施されました。

※岩手県消費者団体連絡協議会、岩手県生活協同組合連合会などから構成

被災地の冬支度始まる



岩手の冬の寒さを気遣い、秋冬物衣料が届けられた。

秋冬物の衣類の配布にも多くの方々を訪れました。この仮設住宅で暮らす岡田憩子さんは「仮設住宅がどれくらい寒いかはまだ分かりません。震災直後に体育館で過ごしたことを考えれば大丈夫かと思いますが、やはり準備には念を入れています」。一方で、仮設住宅には収納スペースがほぼないため「物は厳選したい」という声もありました。